

(2019年度)

3 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は24ページ，4問である。)

受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に，試験監督者から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し，所定の欄に氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机上に置くこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能を使用してはならない。また，スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. 解答は，解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき，マーク欄からはみ出したり，白い部分を残したり，文字や番号，○や×をつけたりしてはならない。また，マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。
9. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 日本の文字文化の歴史について記述した以下の文章を読んで、関連するあとの問いに番号で答えなさい。

- (1) 日本における文字文化は、渡来人によって漢字・漢文がもたらされたことによって始まった。福岡県の弥生時代の遺跡から硯と考えられる遺物が出土した事例はあるが、文字が書かれた遺品は発見されていない。
- (2) 江戸時代の天明年間、九州にある(ア)の農民が偶然発見した金印には「漢委奴国王」の文字が彫り込まれていた。これは(あ)東夷伝に記載された、建武中元二年(西暦57年)に(A)から「倭奴国」に下賜された印綬にあたるものと考えられている。
- (3) 中国の正史の一つ、(い)倭人伝によれば、景初二年(三年の誤り・西暦239年)に、朝貢の使者を派遣してきた(B)という女王に「親魏倭王」の印綬が授けられたと記載されているが、実物は発見されていない。この時代の印章は、書類や物品の容器を括った紐に泥をつけて封印(封泥)するために用いられたもので、紙に書かれた文字に墨や朱で捺印する後世の印章とは用途が異なっている。
- (4) 日本人が日本語を表すために漢字を用いて書いた資料の最古級の遺品は、古墳から出土した金属器である。埼玉県の(イ)から出土した鉄剣には、辛亥年に乎獲居臣が先祖代々の名前を連ねた系譜を記し、斯鬼宮の獲加多支鹵大王に仕えたという銘文が金象嵌で刻まれており、干支から西暦471年の制作と見られている。
- (5) この鉄剣が出土したことにより、以前から知られていた熊本県の(ウ)から出土した鉄刀の峰の部分に刻まれていた銘文も獲加多支鹵大王に仕えた豪族のものであることが分かった。全国の古墳から出土した刀剣類はたくさんあるので、今後こうした銘文を持った遺品が発見される可能性がある。

- (6) 和歌山県の(エ)に伝わった人物画像鏡には、癸未年に「意柴沙加宮」の「男弟王」に仕えた豪族が幸福を願って記した銘文が鑄出されており、「オシサカ(忍坂)」を漢字によって表記した古い例として注目される。この銅鏡の干支は、西暦443年か503年のいずれかと考えられており、(う)に「男大迹王(おおとのきみ)」と表記される(C)に当たるものと推定されている。
- (7) (イ)の鉄剣銘からうかがわれるように、初期の文字は、氏族の先祖の系譜を書き上げるために用いられている。もともと口頭で読み上げられた先祖の系譜が形式化され、「氏文」と呼ばれる記録を生み出したものと見られる。古代の氏文は、『高橋氏文』しか残っていないが、その文章には儀式の場で口頭で読み上げられた面影を残している。
- (8) 大化の改新、白村江の戦い、壬申の乱を経験して、673年に即位した(D)は、中央集権的な国家体制の構築をめざし、官職制度や経済改革・都城(エ)の造営など、唐や新羅に見劣りしない国家を作り上げるために努力した。そのような国家的事業の一環として、自国の歴史を記した史書の編集も行われた。
- (9) 『国記』と呼ばれる国の歴史書は、古くから作られていたと言われるが、蘇我氏の滅亡とともに失われたという。奈良時代の初め、712年に(え)が本邦現存最古の歴史書として成立した。この書は、古い伝承に通じた(E)という舎人の読み方を、(F)が筆録したもので、漢文体を基礎としながら、古代の日本語をそのまま取り入れている部分も多く、口頭によって伝えられてきた歴史の面影を残している。
- (10) さらに大規模な史書として(う)全30巻が720年に完成した。この歴史書は、朝廷に仕える豪族たちから、家々に伝わる記録・伝承を提出させ、取捨選択して歴史を叙述したもので、同じ歴史的事実について複数の伝承をそのまま並記しているところに特徴がある。本書は対外的に日本の歴史を示し、王権の

正統性を示すために編纂されたもので、全編漢文体でつづられている。

(11) 平安時代以後、(え)はほとんど読まれなくなったのに対して、(う)は神話時代から始まる日本国の成り立ちを記した古典として尊重された。(う)は持統天皇の代で終わっているが、それに続く史書として(お)など5種類の書物がまとめられ、全部あわせて「六国史」と呼ばれ、日本の正史とされたが、失われてしまった部分が多い。

(12) (う)の完成に先立って、713年には全国の国府に命じて(か)の提出が命じられた。これは、地形や地名の由来・特産品など、さまざまな分野を地区別に記述した地誌となっている。全国一斉に提出されたものの、ほとんど失われ、現在までほぼ首尾完結して伝わるものはわずか5か国分だけであるが、古代国家が時間軸を記録した国史と、空間的広がりを記述した地誌を積極的に編集して、緻密な国家支配を完成させようとした努力がうかがわれる。

問1 (ア)～(エ)に入る地名・場所の名を以下の語群から選びなさい。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| ① 対馬 | ② 志賀島 | ③ 大仙陵古墳 |
| ④ 稻荷山古墳 | ⑤ 江田船山古墳 | ⑥ 隅田八幡神社 |
| ⑦ 熊野那智大社 | ⑧ 箸墓古墳 | ⑨ 熱田神宮 |
| ⑩ 井寺古墳 | ⑪ 藤原京 | ⑫ 乙訓京 |

問2 (あ)～(か)に入る書名を以下の語群から選びなさい。

- ① 『後漢書』 ② 『魏志』 ③ 『古事記』
- ④ 『日本書紀』 ⑤ 『風土記』 ⑥ 『新撰姓氏録』
- ⑦ 『史記』 ⑧ 『先代旧事本紀』 ⑨ 『太平御覧』
- ⑩ 『続日本紀』

問3 (A)～(F)に入る人名を以下の語群から選びなさい。

- ① 舍人親王 ② 継体天皇 ③ 聖武天皇 ④ 梁武帝
- ⑤ 光武帝 ⑥ 太安万侶 ⑦ 卑弥呼 ⑧ 天武天皇
- ⑨ 稗田阿礼 ⑩ 厩戸王

問4 (11)で記述される「六国史」に含まれる書名を以下の語群からすべて選びなさい。

- ① 『扶桑略記』 ② 『日本紀略』 ③ 『日本後紀』
- ④ 『類聚国史』 ⑤ 『日本三代実録』 ⑥ 『大日本史』
- ⑦ 『本朝世紀』 ⑧ 『続日本後紀』 ⑨ 『皇代略記』
- ⑩ 『百鍊抄』 ⑪ 『日本文徳天皇実録』

問5 (12)に記述される地誌のほぼ完全な写本が現存する国名を5つ選びなさい。

- ① 豊後 ② 武蔵 ③ 肥前 ④ 出雲 ⑤ 常陸 ⑥ 播磨
- ⑦ 駿河 ⑧ 日向 ⑨ 因幡 ⑩ 伊勢

- 2 つぎの【文書A】～【文書C】と【解説文】を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、いずれの文書も原文は漢文であるが、読みやすくするために訓読し、一部の漢字を仮名にしてある。

【文書A】

院庁下す 信濃国小川御荘の公文等

平維綱の妨げを停止し、預増證の下知に任せて、下司職を沙汰致さしむべき事。

右、預の大法師増證の解状に云く。当御荘は、相伝の領として、敢えて相論なし。仍つて券文を以て、最勝寺の御領に寄進するの間、下司の清原家兼無道の沙汰を致すに依りて、池田宗里讐敵の爲めに、去る五月十五日に殺害せられ畢んぬ。その後、平維綱は家兼の讓状ならびに文書ありと号して、濫吹を致し、遺物を押し取り、荘務を執行せんと擬す。もつともその謂れ無し、てえれば、早く彼の維綱の妨げを停止し、増證の下知に任せて、下司の沙汰を致さしむべきの状、仰するところ件の如し。公文等よろしく承知し、遺失すべからず。故に下す。

天養二年七月九日 主典代主計権助兼因幡権介皇后宮大屬大江朝臣(花押)

別當 権 大納言 藤原朝臣 (花押)

民部 卿 藤原朝臣 (花押)

権中納言兼左衛門督藤原朝臣 (花押)

内藏頭兼伊予守皇后宮亮藤原朝臣 (花押)

尾張守兼右京大夫平朝臣

権右中弁藤原朝臣 (花押)

語注 ○預＝預所。○相論＝訴訟によって争うこと。○畢＝「おわんぬ」。完了の意。○濫吹＝みだりなこと。乱暴。○擬＝しようとするの意。○天養二年＝西暦1145年

【文書B】

(花押)

下す 伊勢国波出御厨

補任す (オ)職の事

左兵衛尉惟宗忠久

右、件の所は故出羽守平信兼の党類の領也、
しかるに信兼謀反を発すに依り追討せしめ畢
んぬ。仍つて先例に任せて公役を勤任せしめ
んがために、(オ)職に補する所也、早く
彼の職として沙汰致すべきの状件の如し、以
て下す。

元暦二年六月十五日

語注 ○故出羽守平信兼 = 平家一族が西海に逃れた後も伊賀・伊勢地方にとど
まって蜂起したが、源義経らに制圧された。○元暦二年 = 西暦1185年

【文書C】

前(キ)家政所下す 左兵衛尉惟宗忠久
早く大隅・薩摩両国家人奉行人として沙汰致すべき条々の事

一 内裏大番を催勤せしむべき事
右、彼の国の家人等を催し、勤仕せしむべし。

一 人の売り買いを停止せしむべき事
右、件の条、禁遏すべきの由、宣下稠疊。而るに辺境の輩、違犯の由その聞こえ有り。早く停止すべし。若し違背の輩有らば、重科に処すべし。

一 殺害已下の狼藉を停止せしむべき事
右、殺害狼藉の禁制殊に甚だし。宜しく国中を(ケ)し、停止せしむべし。

以前の条々、仰する所件の如し。抑も忠久事を左右に寄せ、咎無きの輩を冤凌すべからず。而るに又、家人等優恕を誇るの余り、奉行人の下知を対捍すべからず。惣じて不慮の事出来の時、おのおの勤節致すべし。以て下す。

建久八年十二月三日 案主清原
令大藏丞藤原(花押) 知家事中原
别当前因幡守中原朝臣
散位藤原朝臣(花押)

語注 ○禁遏=禁止。○宣下稠疊=朝廷から禁止令が重ねがさね出されていること。○冤凌=無実の者に暴力を加えて苦しめること。○優恕=犯罪・非法などを大目に見てやること。○対捍=義務の履行を拒否すること。○建久八年=西暦1197年

【解説文】

平安時代の中期から末期にかけて、朝廷・公家の行政において下文と御教書、この2系統の文書が盛んに用いられるようになっていた。御教書系統の文書には、天皇の意志を蔵人が承って伝える形式の(ア)や、上皇に近侍する院司が上皇の意向を受けて自分を形式上の差出人として発給した(イ)などがある。下文は、官宣旨(弁官下文)を起源とする様式で、【文書A】はその一例である。【文書A】の形式上の下達対象は(ウ)になっている。それは、こうした命令を当該地域の関係職員に知らせるという意味で(ウ)宛に命ずる形

をとっているのだが、実際にこの下文を交付され、受給したのは(エ)だったはずである。なぜならば、この下文によって「下司職を沙汰する」権利を得るのは(エ)だからである。

12世紀の末に、源頼朝が鎌倉を本拠として東国を基盤とする武家政権を樹立した時、その政権運営のために用いられた文書も下文と御教書、この2系統の文書であった。これは、この武家政権が京都の朝廷・公家から分離・独立して存立しうるものではなく、その中枢にある頼朝以下の武士たちが、まだ独自の政治文化を形成できていなかったことを如実に示している。

頼朝は当初、日付のつぎの行の上部に前右兵衛佐源朝臣(花押)と署判する下文も出したが、(オ)職補任状に用いたのは、まず【文書B】のような、文書の右部分に花押を署するほか差出書を書かない下文である。この様式の文書を(カ)という。

建久元年11月、頼朝は上洛して権大納言と(キ)に任ぜられる。同年12月には両官を辞してしまうが、これを機に翌年から(ク)を発給した。まず現れるのが前(キ)家(ク)である。ところが、建久3年7月、頼朝は征夷大將軍に任ぜられたので、將軍家(ク)を出すことになった。その後、おそらく建久6年3月から7月にかけて上洛した際に、彼は將軍職を辞し、以後、再び元の前(キ)家(ク)にもどる。【文書C】はその一例で、惟宗忠久に大隅・薩摩の「家人奉行人」としての職権を示したものである。その第一条にみえる京都大番役の催促と、第三条の殺害狼藉の禁止は、鎌倉幕府における(ケ)の職権事項いわゆる(コ)のなかの2つとほぼ合致するし、第三条には「宜しく国中を(ケ)し」と書いてあるので、これらの点をあわせ考えると、「家人奉行人」は(ケ)の前身であり、この文書は(ケ)制度の成立過程を考えるうえに重要な史料ということが出来る。なお、御成敗式目で成文化された(コ)は、大番催促・(サ)・殺害人の逮捕であり、(サ)は【文書C】第二条にみえる人身売買の取り締まりとは結び付かない。

頼朝の(ク)は摂関家などの(ク)とほとんど同じ形式で、頼朝自身の署判がなく、別当・令・知家事・案主など家司に当る人々が連署している。【文書C】の「大蔵丞藤原」は武藤頼平、「前因幡守中原朝臣」は(シ)、「散位

藤原朝臣」は二階堂行政である。(シ)は、公家出身であるが、同じく公家出身の幕府官僚に(ス)がいる。(ス)は、伯母が頼朝の乳母であった関係から、伊豆国に配流中の頼朝に京都の情報を送っていたが、頼朝に招かれ、問注所の初代執事となった。

頼朝は建久2年、従来所領給与にあたって御家人に下付していた(カ)を返還させて、(ク)を再交付することにした。鎌倉幕府の歴史書である(セ)の建久3年8月5日条によれば、この日、有力御家人の千葉常胤が、家司のみが花押を書く(ク)では後々の証明に備え難いといつて、頼朝の(カ)を求め、併せ賜わったという。千葉常胤宛の両文書の正本(原本)は知られていないが、下野国の有力御家人である(ソ)宛の建久3年9月12日付(ク)と同日付の(カ)が現存している。

問1 【文書A】の「院庁」は誰の家政機関か。つぎの中から1人選びなさい。

- ① 後三条天皇 ② 白河上皇 ③ 堀河天皇 ④ 八条院暲子
- ⑤ 鳥羽上皇 ⑥ 崇徳上皇

問2 【文書A】について説明した文章として不適切な(誤解を含む)のはどれか。

次の中から1つ選びなさい。

- ① 小川荘は、それまで相論も無く相伝されてきたところで、書類をそろえて最勝寺に寄進された。
- ② かつて小川荘の下司であった清原家兼は、池田宗里と敵対し、この年の5月15日に殺されてしまった。
- ③ 書類を保持して小川荘の下司職を相伝してきた平維綱が、「増證に職を妨害されている」と院庁に訴えた。
- ④ 小川荘に関する訴えを受理した院は、「平維綱の乱暴を止めさせ、下司職は増證の指図どおりにせよ」と裁定した。
- ⑤ 「下司職」とは、小川荘の下司の職務を執行するとともに、この職務にもなう収益を取得する権利を意味した。
- ⑥ 署判は院司であるが、四等官の規定を準用して、長官と次官は上段に、判官以下は下段に署名している。

問3 【文書A】にみえる「最勝寺」が建立されていたのはどこか。次の中から1つ

選びなさい。

- ① 鞍馬 ② 高尾 ③ 鎌倉 ④ 水無瀬 ⑤ 白河
- ⑥ 北野

問4 【文書A】にみえる「最勝寺」は誰の発願で建立された寺院か。次の中から1

人選びなさい。

- ① 後三条天皇 ② 白河天皇 ③ 堀河天皇
- ④ 鳥羽天皇 ⑤ 待賢門院 ⑥ 崇徳天皇

問5 【文書A】にみえる「最勝寺」の東西には、最勝寺が建立される以前に、天皇の発願で寺院が建立されていた。東側(東隣)は八角九重塔をもつ大寺院だったが、西側(西隣)は何という寺院だったか、1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 法住寺 ② 蓮華王院 ③ 延勝寺 ④ 成勝寺 ⑤ 法成寺
- ⑥ 尊勝寺

問6 【文書A】にみえる「尾張守兼右京大夫平朝臣」とは誰か。次の中から1人選びなさい。

- ① 平維衡 ② 平正盛 ③ 平忠盛 ④ 平忠正 ⑤ 平頼盛
- ⑥ 平重盛

問7 【文書A】にみえる「平維綱」と「尾張守兼右京大夫平朝臣」は、これ以前、ともにある水域の海賊鎮圧に従事していた。ある水域とはどこか。次の中から1つ選びなさい。

- ① 伊勢湾 ② 若狭湾 ③ 瀬戸内海 ④ 対馬海峡 ⑤ 博多湾
- ⑥ 琵琶湖

問8 【文書A】にみえる「尾張守兼右京大夫平朝臣」は、ある院領荘園の預所となったことを機に、日宋貿易に着手した。その院領荘園とはどこか。次の中から1つ選びなさい。

- ① 筑前国赤間荘 ② 肥後国鹿子木荘 ③ 肥後国山鹿荘
- ④ 肥後国人吉荘 ⑤ 肥前国伊佐早荘 ⑥ 肥前国神埼荘

問9 【文書A】にみえる「主典代」の「主典」は、本来何と読んだか。次の中から1つ選びなさい。

- ① とのも ② すけん ③ もんど ④ じょう ⑤ さかん
- ⑥ ずてん

問10 【文書B】にみえる「惟宗忠久」は、薩摩・大隅にひろがる島津荘の下司職と
なつて、「島津」を名のるようになったが、忠久はもともと同荘の領主(本家)
の家司であつた。惟宗忠久は何家の家司だつたか。次の中から1つ選びなさい。

- ① 九条家 ② 二条家 ③ 一条家 ④ 鷹司家 ⑤ 近衛家
⑥ 西園寺家

問11 【解説文】の空欄(ア)(イ)(カ)(ク)に入る適切な語句を、
次の中から1つずつ選びなさい。

- ① 解状 ② 院宣 ③ 印判状 ④ 詔書 ⑤ 政所下文
⑥ 綸旨 ⑦ 勅書 ⑧ 袖判下文 ⑨ 申文 ⑩ 院庁下文

問12 【文書B】【文書C】【解説文】の空欄(ウ)(エ)(オ)(キ)
(ケ)に入る適切な語句を、次の中から1つずつ選びなさい。

- ① 相模守 ② 郡司 ③ 左兵衛佐 ④ 守護 ⑤ 下司
⑥ 預所 ⑦ 国司 ⑧ 右大将 ⑨ 武蔵守 ⑩ 公文
⑪ 奉行人 ⑫ 地頭 ⑬ 追捕使 ⑭ 検非違使 ⑮ 頭中将

問13 【解説文】の空欄(コ)に入る適切な語句を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 騎射三物 ② 先例と道理 ③ 唯浄裏書 ④ 本所法
⑤ 式目追加 ⑥ 大犯三カ条

問14 【解説文】の空欄(サ)に入る適切な語句を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 兵糧料所 ② 謀叛人の逮捕 ③ 刈田狼藉 ④ 下地中分
⑤ 使節遵行権 ⑥ 關所地処分権

問15 【解説文】の空欄(シ)(ス)(ソ)に入る適切な人名を、次の中から1人ずつ選びなさい。

- ① 和田義盛 ② 畠山重忠 ③ 小山朝政 ④ 平賀朝雅
⑤ 三善康信 ⑥ 上総介広常 ⑦ 大江広元 ⑧ 梶原景時
⑨ 比企能員 ⑩ 中原親能

問16 【解説文】の空欄(セ)に入る適切な語句を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 『玉葉』 ② 『後鑑』 ③ 『吾妻鏡』 ④ 『保暦間記』
⑤ 『元亨釈書』 ⑥ 『百練抄』

3 以下の文章は豊臣(羽柴)秀吉の全国統治に関するものである。文章をよく読んで各問いに答えなさい。

四国平定を完成した翌年、〔 あ 〕となり豊臣姓を与えられた秀吉は、はじめ(A)キリスト教の布教を認めていたが、しだいに、自身がつくりあげようとした国家体制にキリスト教が妨げになると考えるようになった。〔 い 〕年、島津氏征討のため九州に赴いた秀吉は、(B)キリシタン大名の〔 う 〕が長崎を〔 え 〕会の教会に寄進していることなどを知り、まず大名らのキリスト教入信を許可制にした。このとき秀吉は、キリシタン大名の中心的存在であった播磨国明石城主(D)〔 お 〕に棄教を迫ったが、拒否されたため、その領地を没収した。これはキリシタン大名の増加と彼らの連携を警戒した秀吉による一種の見せしめであった。その後〔 お 〕は、約30年の間、盟友の保護のもと北陸に滞在した。(E)

〔 い 〕年に秀吉は〔 か 〕令を出して宣教師の国外追放を命じた。宣教師が(F)神社仏閣を破壊しているというのが直接の理由であったが、キリスト教と南蛮貿易を分離できると考えた秀吉は、〔 き 〕船や商人の来航は従来通り認める方針をとった。また1588(天正16)年、秀吉は〔 く 〕令をだし倭寇などの不法行為を(I)

禁止し、海上の平和を実現するとともに、一方では京都・堺・長崎・博多の豪商^(J)らの東アジア諸国への渡航を保護するなど、南方貿易を奨励した。このような貿易の奨励は、結果的にキリスト教の取締りを不徹底なものにし、キリスト教はな^(K)お各地にひろがっていった。

ところが1596(慶長元)年、〔 け 〕船〔 こ 〕号が土佐沖に漂着したとき、乗組員の不用意な発言と讒言から〔 け 〕が領土拡張に宣教師を利用しているという話が伝わり、これを知った秀吉は、〔 け 〕系の〔 さ 〕会を中心とする宣教師・信者26名を捕え、長崎に送って処刑した。その背景には、日本への布教のため進出した〔 け 〕系の〔 さ 〕会と〔 え 〕会との対立があったが、この事件は日本の支配者層の間にキリスト教に対する警戒心をうえつけるものとなった。^(N)

問1 文中の空欄〔 あ 〕～〔 さ 〕にあてはまる語句を、以下の語群から選びなさい。

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| ① スペイン | ② フランシスコ | ③ 細川忠興 |
| ④ サン＝ジョアン | ⑤ 1587(天正15) | ⑥ 小西行長 |
| ⑦ ドミニコ | ⑧ イギリス | ⑨ 執権 |
| ⑩ 大村純忠 | ⑪ サン＝ドミンゴ | ⑫ 太閤 |
| ⑬ 荒木村重 | ⑭ 1586(天正14) | ⑮ 太政大臣 |
| ⑯ 1584(天正12) | ⑰ イエズス | ⑱ オランダ |
| ⑲ 前田利長 | ⑳ マリア | ㉑ バテレン(宣教師)追放 |
| ㉒ 竜造寺隆信 | ㉓ アウグスチノ | ㉔ 海賊取締 |
| ㉕ 刀狩 | ㉖ フランス | ㉗ 関白 |
| ㉘ 人掃令 | ㉙ 有馬晴信 | ㉚ 1583(天正11) |
| ㉛ 將軍 | ㉜ 大友宗麟 | ㉝ サンタ＝アンナ |
| ㉞ ポルトガル | ㉟ 高山右近 | ㊱ サン＝フェリペ |
| ㊲ 1585(天正13) | ㊳ 蒲生氏郷 | ㊴ 惣無事 |
| ㊵ サンタ＝マルタ | | |

問2 下線部(A)について、秀吉が平定したとき、四国で最も有力であった大名は誰か。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 毛利 ② 北畠 ③ 長曾我部 ④ 相良 ⑤ 三好

問3 下線部(B)について、秀吉が九州に入ったとき、これを迎え撃とうとしたが降伏した人物は誰か。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 島津家久 ② 島津義弘 ③ 島津義久 ④ 島津貞久
⑤ 島津重豪

問4 下線部(C)について、キリシタン大名のなかには、親子ともどもキリシタンとなったが、息子は領主となった後徳川幕府の下、キリシタン信仰を放棄した人物もいた。それは誰か。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 小西行長 ② 蒲生氏郷 ③ 大内義隆 ④ 黒田長政
⑤ 島津貴久

問5 下線部(D)について、この人物が明石に転封される以前に領主だった土地はどこか。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 西宮 ② 池田 ③ 伊丹 ④ 姫路 ⑤ 高槻

問6 下線部(E)について、追放となった人物を保護した大名で、秀吉の友としてその没後もわずかな年月であったが勢力を保った人物は誰か。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 徳川家康 ② 前田利家 ③ 毛利輝元 ④ 小早川隆景
⑤ 宇喜多秀家

問7 下線部(F)について、宣教師らはこの法令が出された後、何日以内の国外退去を命じられたか。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 10日 ② 20日 ③ 30日 ④ 40日 ⑤ 50日

問8 下線部(G)について、豊臣政権下、日本人の海外進出は盛んとなっていたが、商人たちの主な渡航先で、1570年代に設立され、後に太平洋航路の拠点となる地はどこか。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① ルソン ② トンキン ③ アンナン ④ カンボジア
⑤ タイ

問9 下線部(H)について、この年に発布された法令は、農民統制が真の目的であったが、京都のある寺院の造営を名目とした。その寺院名は何か。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 高台寺 ② 妙心寺 ③ 南禅寺 ④ 方広寺 ⑤ 清水寺

問10 下線部(I)について、次の文章は「倭寇」について説明したものである。文中下線の語句に誤りがある場合はその番号①～④を、下線部すべてが正しければ⑤を選びなさい。

倭寇は南北朝の動乱のころ、朝鮮半島、中国大陸沿岸を荒らし回り、人々を捕虜にし、^①略奪を行った海賊集団で、対馬・壱岐・肥前松浦地方の住民を中心とした。規模は船2～3隻のものから数百隻に及ぶ組織的なものまでであった。また、中国沿岸民や高麗人の中にも倭寇とみなされるものが含まれていた。14世紀に活動した倭寇は前期倭寇と名付けられ、朝鮮半島だけでも400件に及ぶ襲撃があった。^③16世紀に活動した倭寇は後期倭寇と呼ばれる。そのなかでも、有名な頭目は、平戸・五島地方に居を構えて数百隻の船団を指揮した王直という明人であった。^④

問11 下線部(J)について、秀吉のころから活発となる南方貿易は、次第に規模を大きくし、江戸幕府の管理のもと朱印船貿易として発展する。そうした中、信長と秀吉に仕えた因幡鹿野の城主で、関ヶ原の戦いに際しては東軍につき、後に朱印船貿易で成功した人物は誰か。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 角倉了以 ② 茶屋四郎次郎 ③ 末吉孫左衛門
④ 今井宗薫 ⑤ 亀井茲矩

問12 下線部(K)について、キリスト教は、江戸幕府においては禁教政策(キリシタン禁教令)の下におかれた。この法令が全国的におよぼされるようになったのはいつのことか。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 1613年 ② 1615年 ③ 1617年 ④ 1619年 ⑤ 1621年

問13 下線部(L)について、この航路を用いる外国船は「土佐」沖を通過して最終的にどこに向かっていたのか。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① ルソン ② マカオ ③ アカプルコ ④ 寧波 ⑤ 台湾

問14 下線部(M)について、26名が処刑された最終地は長崎のどこか。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 大浦 ② 丸山 ③ 西坂 ④ 浦上 ⑤ 亀山

問15 下線部(N)について、江戸幕府はキリシタンへの警戒から禁教政策を継続したが、18世紀初頭、日本に上陸したイタリア人宣教師がいた。その人物を江戸に召喚し尋問した幕閣は誰か。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 新井白石 ② 田沼意次 ③ 柳沢吉保 ④ 萩原重秀
⑤ 松平定信

4 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

1945年(ア)月、GHQの指令をうけて「獄中18年」を脱した(イ)を中心にして日本共産党が合法政党として活動を開始した。翌月には、旧無産政党を集めた(ウ)、旧立憲政友会系で(エ)年の翼賛選挙時の非推薦議員を中心に結成された(オ)、旧立憲民政党系で翼賛体制期には(カ)に属した議員たちを中心に結成された(キ)、その翌月には労使協調を掲げる(ク)が誕生した。しかし、GHQは、次期総選挙でかつての戦争協力者が立候補するのを好まず、1946年(ケ)月の公職追放指令によって、翼賛選挙の推薦議員をすべて失格としたため、彼らは立候補できず、政界は大混乱となる一方、結果として「若返り」ももたらされた。

1945年(コ)月における衆議院議員選挙法の大幅な改正により、女性参政権などを認めた新選挙法が制定された。満20歳以上の男女に選挙権が与えられた結果、有権者の数は、3倍近くになった。1946年(サ)月には戦後初の衆議院選挙が行なわれ、約(シ)人の女性議員が誕生し、(オ)が第一党になった。それをうけて、辞任が決まった(ス)首相の後任には当初、(セ)が就くはこびであったが、彼が公職追放処分をうけることになったため、彼との協議・了解の結果、(ソ)が内閣を組織した。そして、この年には、日本国憲法が公布され、翌年には施行された。

1947年の(タ)月、新憲法下での新しい政府をつくるために衆議院選挙が行なわれたが、その結果、第一党となった党の委員長であった(チ)が新憲法下の最初の首班指名で選ばれ、3党連立内閣が発足した。しかし、この内閣は、連立であるための政策の調整に苦心し、翌年には総辞職した。そして、(ツ)が、同じ3党の連立で組閣したが、広く政界からGHQまでまき込んだ(テ)で退陣した。

問1 前掲の文中の空欄(ア)～(テ)に関する次の問いに答えなさい。

(1) 空欄(ア)に入る数字はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 8 ② 9 ③ 10 ④ 11

(2) 空欄(イ)に入る人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 徳田球一 ② 野坂参三 ③ 宮本顕治 ④ 野呂栄太郎

(3) 空欄(ウ)に入るものはどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 民主社会党 ② 社会大衆党 ③ 社会民主党
④ 日本社会党

(4) 空欄(エ)に入る数字はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 1940 ② 1941 ③ 1942 ④ 1943

(5) 空欄(オ)に入るものはどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 日本自由党 ② 立憲自由党 ③ 自由党 ④ 民主自由党

(6) 空欄(カ)に入るものはどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 日本政治会 ② 政治会 ③ 帝国政治会 ④ 大日本政治会

(7) 空欄(キ)に入るものはどれか。もっとも適切なものを、次から1つ
選びなさい。

- ① 立憲進歩党 ② 日本進歩党 ③ 国民進歩党 ④ 進歩党

(8) 空欄(ク)に入るものはどれか。もっとも適切なものを、次から1つ
選びなさい。

- ① 日本協同党 ② 協同党 ③ 国民協同党 ④ 立憲協同党

(9) 空欄(ケ)に入る数字はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ
選びなさい。

- ① 1 ② 2 ③ 3 ④ 4

(10) 空欄(コ)に入る数字はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ
選びなさい。

- ① 9 ② 10 ③ 11 ④ 12

(11) 空欄(サ)に入る数字はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ
選びなさい。

- ① 3 ② 4 ③ 5 ④ 6

(12) 空欄(シ)に入る数字はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ
選びなさい。

- ① 20 ② 40 ③ 60 ④ 80

(13) 空欄(ス)に入る人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選
びなさい。

- ① 幣原喜重郎 ② 鈴木貫太郎 ③ 近衛文麿 ④ 東久邇宮稔彦

(14) 空欄(セ)に入る人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 岸信介 ② 石橋湛山 ③ 鳩山一郎 ④ 緒方竹虎

(15) 空欄(ソ)に入る人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 吉田茂 ② 池田勇人 ③ 佐藤栄作 ④ 星島二郎

(16) 空欄(タ)に入る数字はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 2 ② 3 ③ 4 ④ 5

(17) 空欄(チ)に入る人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 片山哲 ② 江田三郎 ③ 浅沼稻次郎 ④ 鈴木茂三郎

(18) 空欄(ツ)に入る人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 和田博雄 ② 芦田均 ③ 三木武夫 ④ 西尾末広

(19) 空欄(テ)に入るものはどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 造船疑獄 ② 帝人事件 ③ 炭鉱国管疑獄
④ 昭和電工事件

問2 前掲の文中の下線部(a)~(f)に関する次の問いに答えなさい。

(1) 下線部(a)の説明として正しいものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① 結党は、1923年であった。
- ② 当初から、中国共産党との関係が深かった。
- ③ 機関紙は、『赤旗』であった。
- ④ 当局による検挙・弾圧により、1930年ごろには活動不能となった。

(2) 下線部(b)の説明として正しいものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① 結党は、1900年であった。
- ② 初代総裁には、西園寺公望が就いた。
- ③ 憲政会が結党に参加した。
- ④ 解党は、1941年であった。

(3) 下線部(c)の説明として正しくないものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① 東条英機内閣下で行なわれた。
- ② 4年ぶりの衆議院選挙であった。
- ③ その結果、推薦議員は、約380人になった。
- ④ その結果、翼賛政治会がつけられた。

(4) 下線部(d)の説明として正しくないものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① 結党は、1927年であった。
- ② 憲政会が結党に参加した。
- ③ 結党後、「憲政の常道」期に3人の首相を出した。
- ④ 解党は、1940年であった。

(5) 下線部(e)の説明として正しいものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① これによって、約31万人が公職から追放された。
- ② 言論人は、対象からはずされた。
- ③ 1948年まで続いた。
- ④ 1951年初めから順次、解除が始まった。

(6) 下線部(f)の説明として正しくないものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① GHQは、草案作成の過程にかかわった。
- ② 新憲法の制定は、明治憲法を廃止して行なわれた。
- ③ 天皇は、象徴とされた。
- ④ 交戦権を認めないとした。



